

平成28年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

平成28年7月22日現在

研究課題名	『中世スラヴ語テキストの多元的研究—スラヴ文献言語学の新たなアプローチをめざして—』				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	三谷恵子		東京大学人文社会系研究科・教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	三谷恵子	東京大学・教授	言語学・スラヴ語学	研究取りまとめ・研究会主催
	2	服部文昭	京都大学・教授	ロシア語学	ロシア語史的 研究
	3	三浦清美	電気通信大学・教授	中世ロシア文学	中世ロシア文学史的 研究

研究成果の概要

中世スラヴ世界において「書かれたテキスト」の中心はいうまでもなく、聖書や祈祷書などの教会文書だったが、そのほかに、それぞれのスラヴ地域の社会・文化的状況に応じて、世俗的な物語、年代記、またさまざまな実用文書が作られた。こうした中で、テキストの成立経緯やその主題また構成という点でとくに興味深いのが、アポクリファというジャンルにまとめられるテキスト群である。「アポクリファ」＝「外典」は、一般的な定義によれば、正典から“外された”聖書の物語の数々であり、東西キリスト教会、またその分派ごとに、アポクリファに属するテキストの範囲がおおむね定まっている。しかしスラヴ世界、とくに東方教会圏スラヴ域には、ほかのヨーロッパ・キリスト教会圏には見られないような多様な物語がある。それらの多くは、キリスト教以前のユダヤ世界、あるいはさらに古いオリエント世界に起源をもち、地中海東部キリスト教域でテキストとして形成され、ビザンツ経由あるいは近隣のどこかからスラヴ世界に入ったと考えられる。

したがってスラヴ世界のアポクリファは、こうした、伝播の経路や原テキストの所在のあいまいさ、地域的な受容の異なりを反映した多様な書き換えなどによって特徴づけられ、19世紀以来さまざまな研究者によってテキストの比較分析が行われてきたとはいえ、まだ明らかにされていない面を多くもつ。

この研究では、このような、未解明の部分が多い中世アポクリファテキストをテーマに、テキスト伝播と書き換えの関係、テキストの形成と受容文化の関係、同じコンプレッションの中に現れる他のテキストとの関係といった、テキストの“文学的環境”（литературное окружение）に注目しながら、それぞれがテキスト分析を行った。

研究成果の概要（続き）

具体的な成果としては、まず、本研究の中間発表という位置づけで、2015年11月8日埼玉大学にて開催された日本ロシア文学会全国大会発表会にパネル『中世スラヴテキスト研究の新たなアプローチ』を出した。そこで服部は『『賢者アキールの物語』の最古のロシア版』というタイトルで、三谷は『『十二の金曜日の物語』スラヴ・リセンションのテキスト比較研究試論』、三浦は『中世ロシアの創造力 アポクリファをめぐって』というタイトルで発表を行った。服部の発表は昨年度の研究テーマのまとめだったが、三谷は未研究のアポクリファについて比較テキスト論的に分析し、また三浦は『十字架の木の物語』の文学的解釈を紹介した。

さらに2016年3月には、ロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所からアレクサンドル・ボブロフ博士、またブルガリア科学アカデミー・文学研究所からアニサヴァ・ミルテノヴァ博士を招聘し、札幌と東京でワークショップを開催した。札幌では北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターを会場に3月15日、Slavic Apocrypha viewed from Inside and Outside the Slavic World というテーマでボブロフ、ミルテノヴァ、服部、三浦、三谷がそれぞれのテーマで発表を行い、意見交換した。東京では東京大学文学部を会場に3月17日、Medieval Slavic Texts: Then and Now というテーマでボブロフ、ミルテノヴァ両氏が講演を行った。

以上の研究から、中世スラヴ文献世界の多様性とテキスト伝達のダイナミズムの一端を明らかにすることができた。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）**論文**

三谷恵子『『十二の金曜日の物語』スラヴリセンション写本の比較研究』『ロシア語ロシア文学研究』48号、2016年（掲載予定、頁未定）

学会発表

三谷恵子、服部文昭、三浦清美（パネル）『中世スラヴテキスト研究の新たなアプローチ』日本ロシア文学会埼玉大会 2015年11月8日埼玉大学

Keiko Mitani, "The Story about the Twelve Fridays": A Text-critical Study of South Slavic and Russian manuscripts" The 20th conference on Balkan and South Slavic Linguistics, Literature and Folklore. Utah University, 29.04.2016

ほか研究報告集 New Approaches to the Medieval Slavic Texts を刊行予定（2016年度中）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

応募中のプロジェクトはないが、今年度10月22・23日に北海道大学で開催される日本ロシア文学会全国大会にパネル Динамические аспекты средневековой славянской письменности

Текст, язык, образ повествования として、三谷、服部、三浦およびロシア人研究者の構成で新たな研究成果を公開する予定である。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。